

船舶事故調査報告書

平成22年3月11日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲 也
 委員 根本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成21年3月6日 23時35分ごろ
発生場所	沖縄県多良間村水納島北西沖 宮古水納島灯台から真方位304° 3,600m付近（概位 北緯24° 46.0′ 東経124° 40.4′）
事故調査の経過	平成21年3月8日、本事故の調査を担当する主管調査官（那覇事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 松丸、9.99トン ON2-0511、個人所有 11.74m (Lr) × 2.70m × 1.28m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数120、昭和53年9月24日
乗組員等に関する情報	船長 男性 59歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士 免許登録日 平成9年3月26日 免許証交付日 平成19年7月17日 (平成24年7月16日まで有効) 甲板員A 男性 61歳 甲板員B 男性 57歳
死傷者等	行方不明 1人（船長）
損傷	船体が中央部にて切断
事故の経過	本船は、船長ほか甲板員2人が乗り組み、平成21年3月6日13時00分ごろ、沖縄県石垣市石垣漁港を出港し、同県糸満漁港に向け、約4ノットの速力で自動操舵により航行した。当直中の甲板員Aは、宮古水納島灯台を認め、水納島付近に接近したことを操舵室内の寝台で就寝中の船長に告げた。船長は、GPSプロッターを操作したのち、宮古水納島灯台が近いが大丈夫だろうと甲板員Aに告げて寝台に横になった。その4～5分後、23時35分ごろ、本船は、水納島北西沖のリーフに乗り揚げた。 船長は、救命胴衣を着用後に船体が傾いて落水した。甲板員2人は、救命胴衣を着用して船内に残っていたが、乗揚から約1時間後、船体が大きく傾いたので、水納島の灯台の灯りに向かって泳ぎ、浅い場所では歩いて、水納島の海岸に着いた。翌々日8日07時30分ごろ、甲板員2人は付近を航行中の巡視艇に救助されたが、船長は行方不明となった。
気象・海象	気象：天気 雨、風向 北北東、風力 4 海象：うねり 2～3m、水温 約24℃ 潮汐：上げ潮の初期
その他の事項	甲板員A及び甲板員Bは、操縦装置及び航海計器の操作を任されていない

	<p>かった。船長は、他船が接近した場合又は本船がGPSプロッターに示される変針予定場所の近くに到達した場合は、船長に報告するよう指示していた。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし 不明</p> <p>本船は、水納島北西沖のリーフに向かっていることに気付かずに航行し、リーフに乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>乗り揚げ前に船長が本船の位置を確認した可能性があると考えられるが、確認の状況については明らかにすることができなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、水納島北西沖を航行中、同島のリーフに向かっていることに気付かず航行したため、リーフに乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>	